

聖 霊

第9回 将来の聖霊の働き

□アウトライン

1. 大患難期において
2. イスラエルの民族的救いのとき
3. メシアの王国（千年王国）において

-
1. 大患難期において・・・大患難期における聖霊の働きについて、聖書は特に次の3つの働きに言及している。新生（再生）、証印、そして啓示（預言）である。

(1) 新生・・・黙7:1～17によれば、大患難期において多くの人々がイエスの福音を信じて救われる。そのとき宣教の働きをするのは、全世界に配置される14万4千人のユダヤ人宣教師たちである。

- ① 黙7:1～8では、まず、その14万4千人の若きユダヤ人男子たちが救いを受けて信者となる。
- ② 次の黙7:9～17では、数えきれないほどの数の異邦人たちが救われて信者となる。この多くの異邦人たちが福音を聞いて信じたのは、14万4千人のユダヤ人宣教師たちの働きによる。
- ③ 大患難期の末期には、そのときに生き残っているイスラエル民族が皆、イエスをメシアとして信じて救われる。この救いは個々人が信じて救いを受けると同時に、イスラエル民族の全員が同じ日に信じて救われる（ゼカリヤ12:9～13:2、13:8～9）。救いが民族的規模で起きるという意味で、民族的救いと呼ぶ。
- ④ 以上のように、大患難期においては、多くの人々が、それもユダヤ人と異邦人の双方の中から、救いを受けることになる。従って、聖霊の新生（再生）の働きは、大患難期においても行われる。

- (2) 証印・・・黙示録7:3、及び黙示録9:4によれば、聖霊は大患難期においても、人々に証印を押す働きをする。

黙7:2～3 また私は、もう一人の御使いが、日の昇る方から、生ける神の印を持って上って来るのを見た。彼は、地にも海にも害を加えることを許された四人の御使いたちに、大声で叫んだ。「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を加えてはいけない。」

黙9:1～6 第五の御使いがラッパを吹いた。すると私は、一つの星が天から地に落ちるのを見た。その星には、底知れぬ所に通じる穴の鍵が与えられた。それが底知れぬ所に通じる穴を開くと、穴から大きなかまどの煙のような煙が立ち上り、太陽と空はこの穴の煙のために暗くなった。その煙の中からいなごが地上に出て来た。それらには、地のさそりが持っているような力が与えられた。そして彼らは、地の草やどんな青草、どんな木にも害を加えてはならないが、額に神の印を持たない人たちには加えてよい、と言い渡された。その人たちを殺すことは許されなかったが、五か月間苦しめることは許された。彼らの苦痛は、サソリが人を刺したときの苦痛のようだった。その期間、人々は死を探し求めるが、決して見出すことはない。死ぬことを切に願うが、死は彼らから逃げて行く。

人が信者になるときの聖霊の働きとして、「証印」を学んだ。現代の信者にとって、証印は霊的な安全を保証してくれるものであるが、大患難期においては、霊的安全だけでなく、地上にくだる神のさばきや大患難期における迫害から守り、身体的安全をも保証するものである。

- (3) 啓示（預言）・・・大患難期においては、預言者や天使を通して人々に神のことが語られる。これは聖霊の働きである。

① 預言者・・・黙11:3～6 大患難期の前半、エルサレムで「二人の証人」が預言者として活動する。

② 天使・・・天使が中天を飛んで、地上の人々に、福音を宣べ伝える。

黙14:6 また私は、もう一人の御使いが中天を飛ぶのを見た。彼は地に住む人々、すなわち、あらゆる国民、部族、言語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音を携えていた。

(4) 聖霊のバプテスマは、大患難期にはない

- ① 聖霊のバプテスマは信者を、目に見えない普遍的教会につなげるための聖霊の働きである。使徒2章の聖霊降臨の日から始まった。
- ② 教会につながるべき異邦人信者の数が満ちたとき（ロマ11:25）、教会は完成し、天に携挙される。そのときをもって、教会時代は終わり、聖霊のバプテスマの働きも終わる。
- ③ 聖霊のバプテスマは、大患難期の前に、教会の携挙とともに終わった。よって、大患難期においては、聖霊のバプテスマは、ない。

2. イスラエルの民族的救いのとき

- (1) イスラエルの民族的救いとは・・・聖霊による新生の働きが、大患難期を生き残ったイスラエル民族の全員一人ひとりに同時に起きるということ。旧約聖書の預言では、その瞬間を「イスラエル民族全体に聖霊が注がれる」と表現している。大患難期の最後の日、イスラエルは民族的救いを受けるであろう。

(2) 旧約預言

- ① イザヤ32:11~20・・・11~14節は大患難期、15節で聖霊がイスラエルに注がれる、16~20節はメシアの王国に関する預言

イザヤ32:15 しかし、ついに、いと高き所から私たちに霊が注がれ、荒野が果樹園となり、果樹園が森と見なされるようになる。

- いと高き所から私たちに霊が注がれ・・・イスラエルの民族的救いは、神の霊、聖霊が人々の上に注がれることによって起きる。
- 荒野が果樹園となり、果樹園が森と見なされる・・・イスラエルが民族的に救われた結果は、約束の地にも現れ、豊かな産物をもたらすようになる。

- ② イザヤ44:3b~5・・・イスラエル民族全体に聖霊が注がれることの預言

イザヤ44:3b~5 わたしの霊をあなたの子孫に、わたしの祝福をあなたの末裔に注ぐ。彼らは流れのほとりの柳の木のように、青草の間に芽生える。あ

る者は「私は主のもの」と言い、ある者はヤコブの名で自分を呼び、ある者は手に『主のもの』と記してイスラエルの名を名乗る。」

- ③ エゼキエル 39：25～29・・・25～28 節は世界各地に離散していたイスラエル人全員が約束の地に帰還すること、29 節はその基盤がイスラエル民族に聖霊が注がれることであるという預言

エゼ 39：29 わたしは二度と、わたしの顔を彼らから隠すことはない。わたしの霊をイスラエルの家の上に注ぐからである——神である主のことば。」

3. メシアの王国（千年王国）において

- (1) 新生・・・メシアの王国でも、聖霊による新生の働きが必要である

エレ 31：31～34 見よ、その時代が来る——主のことば——。そのとき、わたしはイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ。その契約は、わたしが彼らの先祖の手を取って、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破った——主のことば——。

これらの日の後に、わたしがイスラエルの家を結ぶ契約はこうである——主のことば——。わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

彼らはもはや、それぞれ隣人に、あるいはそれぞれ兄弟に、『主を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るようになるからだ——主のことば——。わたしが彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」

- 身分の低い者から高い者まで・・・直訳「子どもから大人まで」

- ① メシアの王国の建国スタート時の住民の中には、イスラエルにせよ、異邦人にせよ、大患難期を生き延びた信者たちがいる。自然の肉体を持っている彼らからは、次の世代の人々が生まれてくる。

- ② この次世代の人たちは皆、罪の性質をもって生まれてくるので、霊的には死んだ状態である。よって、メシアの王国の次世代の人たちも、信仰を通して神の救いを受け取る必要がある。その信仰の内容は現代と同じ、福音の三要素（Ⅰコリ 15：3～4）である。メシアが私たちの罪のために十字架で死んでくださり、墓に葬られ、そして三日目に復活したと信じるなら、その人は救われる。

- ③ 信じたら、どうなるか・・・信仰を通して救いを受けるなら、その人は死ぬことなく、メシアの王国が千年間で終わるまで生きる（イザヤ 65：22）。メシアの王国が終わるときに、信者は不死の体に変えられる。このことを直接言及する聖書箇所はないが、次のとおり考えられる。

☆ エノク（創 5：24）とエリヤ（Ⅱ列 2：11）は、死を経ないで栄光の体に変換された。教会の携挙の時、地上で生き残っている信者たちは、死を経ないで一瞬のうちに栄光の体に変換される（Ⅰコリ 15：51～52）。

☆ 死を経て栄光の体を受けることを「復活」と呼ぶが、大患難期の殉教者が復活して、信者の復活は終わる（黙 20：4～6）。したがって、信者の復活は、メシアの王国が始まる前に終わる。ではメシアの王国時代の信者は、どうやって【天の都に入り、新しい天地に入る】（黙 21：1～2）ことのできる体を受け取るのか。それは、死を経ないで栄光の体に変換される方法によるのである。

- ④ 信じなければ、どうなるか・・・100歳までに信じないなら、その人は死ぬ。よって、メシアの王国時代に死ぬ人は、不信者だけである。

イザヤ 65：20 ヘブル語の詩の形式 A-B、C-D

- A) そこにはもう、数日しか生きない乳飲み子も（いない）、
B) 寿命を全うしない老人もいない。
C) 百歳で死ぬ者は若かったとされ⇒若かったとされる百歳の者が死ぬのは
D) 百歳にならないで死ぬ者はのろわれた者とされる。⇒罪人、百歳の者は呪われた者とされる

☆ のろわれた者とされる、罪人・・・不信者を指す

(2) 内住・・・メシアの王国時代の信者にも、聖霊の内住の働きがある

エゼキエル 36:27 わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。

エゼキエル 37:14 また、わたしがあなたがたのうちにわたしの霊を入れると、あなたがたは生き返る。わたしはあなたがたを、あなたがたの地に住まわせる。このとき、あなたがたは、主であるわたしが語り、これを成し遂げたことを知る——主のことば。』

(3) メシアの上にとどまる・・・聖霊がメシアの上にとどまることによって、メシアは王としての権威を行使し、平和と正義を確立する

イザヤ 11:2~5 その上に主の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、思慮と力の霊、主を恐れる、知識の霊である。この方は主を恐れることを喜びとし、その目の見るところによってさばかず、その耳の聞くところによって判決を下さず、正義をもって弱い者をさばき、公正をもって地の貧しい者のために判決を下す。口のむちで地を打ち、唇の息で悪しき者を殺す。正義がその腰の帯となり、真実がその胸の帯となる。

- 主を恐れること、神を神として畏敬することが、統治のベースになる
- 表面的なことで判断せず、正義と公正、すなわち内面的な義に照らして裁きを行う
- さばきにあたっては、弱い者、貧しい者のために
- 悪しき者とは、メシアの王国に入った諸国民の次世代以降の人で、100歳になるまでに神への信仰を持たず、救いを受け取らない人たち。メシアが唇の息で殺すとは、メシアがその人の死を宣告すると、その人は死ぬということである。
- メシアが腰・胸に帯を締めているとは、立ち向かってくる敵に対していつでも戦えるように準備している、ということ。